

## 立高生が国際生物学オリンピック日本代表に決定

3年 G 組の嶋田佐津君が第 33 回国際生物学オリンピック(IBO2022)アルメニア大会の日本代表となりました。今回の大会は、7月10日～18日までの9日間アルメニアのエレバンで開催されます(公式ホームページ：<https://ibo2022.org/en/>)。

日本代表の日程は以下の通りです。

- 7月8日 成田発
- 7月9日 ドバイ経由、エレバン到着
- 7月10日 大会登録、開会式
- 7月11日 エクスカーション、実験試験会場視察
- 7月12日 実験試験
- 7月13日 エクスカーション
- 7月14日 理論試験、アフターパーティー
- 7月15日 エクスカーション、International group project
- 7月16日 エクスカーション
- 7月17日 エクスカーション、閉会式
- 7月18日 市内ホテル後泊
- 7月19日 エレバン発、ドバイ経由
- 7月20日 ドバイ経由、成田着

立川高校の1, 2年生、そして、未来の立高生の諸君、第2の嶋田君をめざしましょう。

以下に嶋田君からのコメントがあるので、紹介します。

国際生物学オリンピック 2022 アルメニア大会日本代表になりました嶋田佐津です。大会では金メダルを目指しつつ、生物学に興味のある同年代との交流やアルメニアでしかできない経験を楽しみ、将来に繋げていきたいと考えています。

私は幼い頃から恐竜などの古生物や野生動物が好きでした。世の中には幼い時にはそうであっても、成長するにしたがって段々とそれらに対する興味を失う方が多いと思います。

しかし、私は何故かそれらが好きなまま成長し、それだけではなく、より詳しいことを知ろうとするようになりました。

生物学で扱う領域は分子レベルから生態系レベル、さらには地球レベルまで非常に広範囲です。どの範囲も知れば知るほど新たな疑問が湧いてきます。さらに、それらが互いに異なるレベルで相互に作用しあっているという生物学の醍醐味を理解できるようになりました。例えば、分子レベルではミトコンドリアの内膜において ATP 合成酵素が ADP から ATP

を合成する一方で、細胞内の他の部位では ATP の分解が起こっています。細胞レベルで見れば、一つの細胞は ATP を合成するために有機物と酸素を取り入れてエネルギー変換を行い、二酸化炭素などを排出しながら生きています。個体レベルでは、有機物を得るため何かを食べたり光合成をしたりしています。生態系レベルで見ると、死んだ生物が分解され二酸化炭素となって植物に吸収され有機物になります。あくまでこれは一例ですが、生物学は様々なレベルの視点を併せ持っていて、それらが全て関与しあっているという非常に奇特定の学問ではないでしょうか。

世の中には「生物なんて暗記科目、何の役に立つの?」などと考えている方がいるかもしれませんが、「生物は化学、化学は物理、物理は数学、数学は哲学。しかし哲学をすすめるヒトはやはり生物である。」というような言葉も存在します(JBO2021 より、一部改変)。ヒトという一種の生物として、自種も含めた生物全体への理解というのは欠かせないものであると、私は思います。

